

# WWWホームページはどのように設計したらよいか？

## ～小中高ホームページの現状調査・分析からの提案～

東北学院大学大学院  
人間情報学研究科  
市川 尚  
ichikawa@edutech.tohoku-gakuin.ac.jp

東北学院大学助教授  
鈴木 克明  
suzuki@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp

小中高のホームページは、去年からかなりのハイペースで増加を続けている。ここまで増えたホームページには、いったい何が書かれているのか？そして何の役に立つのか...？小中高ホームページの現状調査・分析を通して、ホームページを設計するにはどうしたらよいか提案する。

### 1. ホームページの現状・傾向を知る

#### (1) ホームページの概要

ホームページの現状を知るために、1996年1月17日～23日（7日間）で第二回の調査を行なった（方法の詳細は第一回調査の報告、市川他、1995を参照）。日本全国の小中高校で公開しているホームページをインターネット上で検索し、発信内容を調べる目的ですべてのホームページに目を通した。

各学校で公開されているホームページの所在を知るために、大阪教育大学の「インターネットと教育(<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/educ/>)、佐野昭一氏による「日本の全学校のリスト」(<http://www.csj.co.jp/R/vu/jpnunij.html>)の2つのリストと、SONYのWAVE Search(<http://www1.sony.co.jp/InfoPlaza/WAVESearch/>)という検索を利用した。特に、大阪教育大学のもは、ページの充実度、更新の頻度からみても、筆者の一番のおすすめである（図1参照）。今回の調査で発見した学校の97%を網羅していた。

検索の結果、ホームページは全部で251件見つかった。その校種別内訳は、図2の通りである。前回95年8月の調査（市川他、1995）の時点では98件、発表直前（95年11月）の件数のみの調査では、181件であったから、計算すると実に1日1件の割合で増加していたことになる。251件

のうち、100校プロジェクト参加校が92件あった。

ホームページの設置方法、日本語と英語の情報提供、責任者の提示の有無、更新日についての調査結果を図3から図6に示しておく。

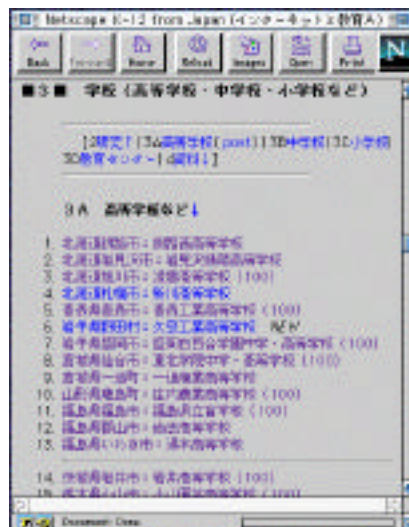


図1 大阪教育大学「インターネットと教育」今回の調査の97%をカバーするおすすめリスト

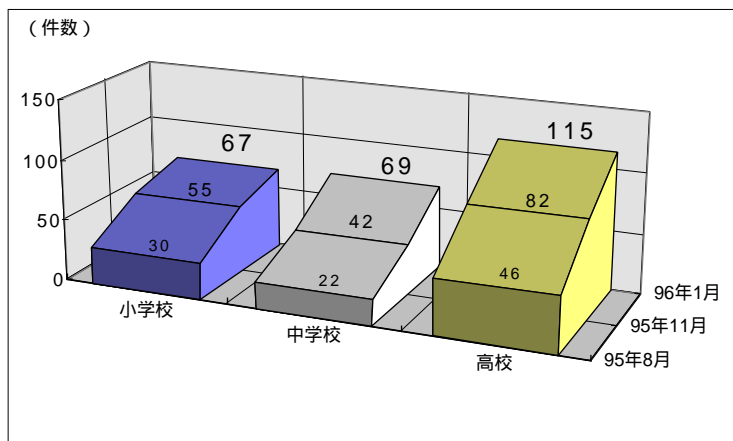


図2 小中高ホームページの件数推移

異なる校種にまたがる学校に関しては、例えば中学高等学校は高校扱いというように、一番上の課程に所属する学校とみなした。

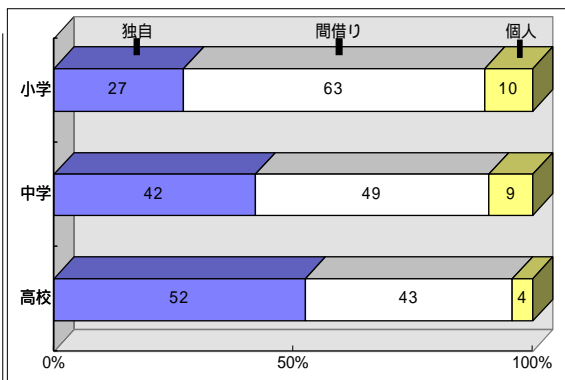


図3 ホームページをどこから立ち上げているのか  
独自で立ち上げているところは、だいたい100校が  
付属校であった。

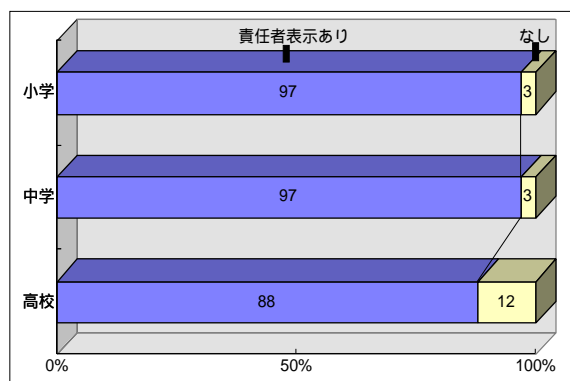


図4 責任者の提示はされているか  
責任者の提示は、ホームページには最も欠かせない  
ことである。高校だけが若干少ない。

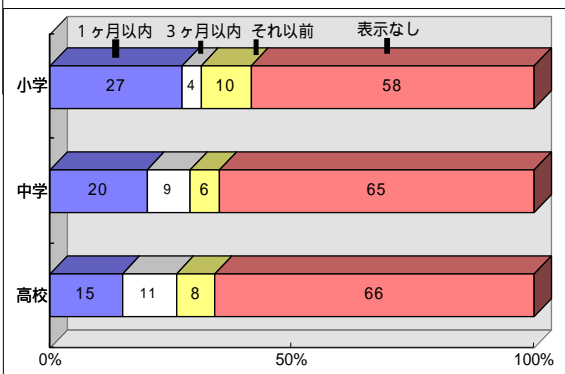


図5 更新日から何日たっているか  
更新日表示なしが目立つ。

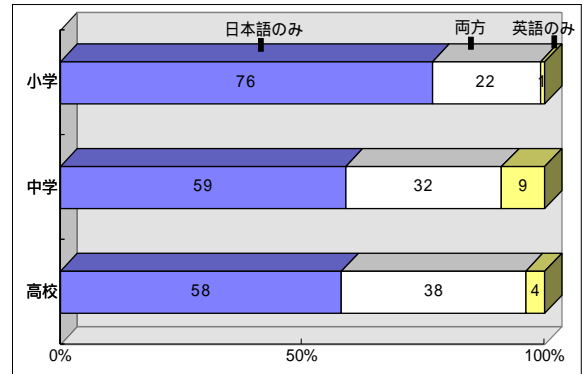


図6 どのような言語を使用しているか  
英語は、海外の人たちに見てもらいたいなら用意す  
る必要がある。教育課程が上になるに連れて英語が増  
えていくようである。

## (2)発信内容の調査

図7の東北学院中学高等学校 (http://www.jhs.tohoku-gakuin.ac.jp) のホームページを例に、発信内容の調査方法を具体的に述べる。発信内容は、ホームページのリンクをたどりながら、あらかじめ用意したカテゴリ表に照らし合わせて分類した。

例えば、学校の全景写真からスタートする第一画面には、発信内容がリストされている(図7左上)。その中の「学校案内」を選ぶと、「校長挨拶」や「建学の精神」などのリンクがあった(図7右上)。「校長挨拶」をクリックすると、校長先生による挨拶があり、そこでリンクはなくなっていた(図7右下)。これは、カテゴリ「学校紹介」という項目に該当するので、このホームページの情報内容の1つとしてチェックした。また、学校案内の下にある「日本のWWWサーバー一覧」のリンク先は、まったく別のサイトから公開されているホームページだったので、そこから先へは進まず、「リンク」の項目としてチェックした(図7左上)。

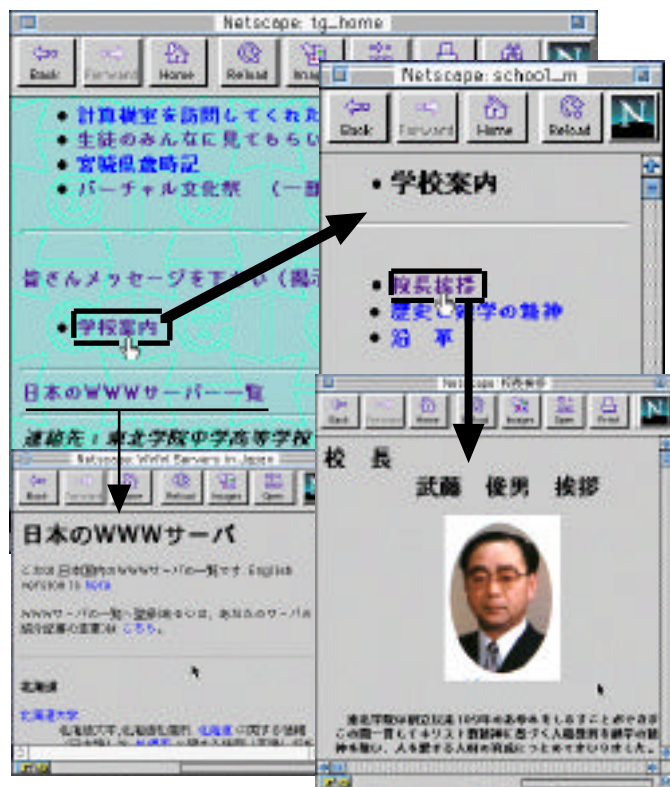


図7 東北学院中学高等学校のホームページ

このようにここで言うホームページとは、「他サイトに行かない範囲の、すべてのリンク先を含むもの」とし、それが今回の各ホームページの調査範囲であった。

発信内容のカテゴリ分類の結果を図8に示す。以下、発信内容の特徴を学校レベル、授業レベル、その他に分けて紹介する。

### (3)学校レベルの発信内容(図8-1)

学校の形式的な紹介をまとめたカテゴリ「学校紹介」には、概要、特色、挨拶、校歌、校章、歴史、教育方針、教育目標、校訓、風景などの内容が見られた。これらは、学校要覧などから手軽に情報を引っぱってこられるものである。どの校種においても7割以上のホームページに含まれていた。挨拶と校歌については、音声で提供されているのもあった。校章や風景はほとんどが画像による紹介であった。マルチメディア素材を自由に組み合わせることができるWWWの特徴を生かしている。

さらに詳しく学校の中身について紹介していたものを、「学校の内容」としてまとめた。その中には、組織、施設、校内図、所在地、カリキュラム、進路、卒業生、人数、教職員紹介、児童生徒紹介、制服、図書などが含まれた。

進路は、受験を考えている人にとっては参考となる情報だろう。また、校内図や所在地などは、直接学校を訪ねてくる人たちの案内となる。図書は、図書館などが運営するページで、おすすめ本などを紹介していた。これらのカテゴリは、あまり面識のない人と交流する際に、自分たちのことを知ってもらうのによい。グラフを見ると、高校が最も得意とする分野であった。

主にイベントや研究会などのお知らせを発信していたものを「アナウンス」としてまとめた。学校の宣伝をしている例や、学校のできごとを伝えたり、新聞、お便りなどの形でニュースを発信しているものもあった。

学校周辺の地域について紹介しているものを、「地域情報」とした。県、市の情報や観光、特産品などの紹介の例として、旭川市凌雲高等学校の旭川の紹介は超大作である。観光に行く人たちにとっては、かなり有益な情報となるだろう。

また、震災にあった現地の模様や、体験が書かれていたものとして神戸商業高等学校などがの例がある。

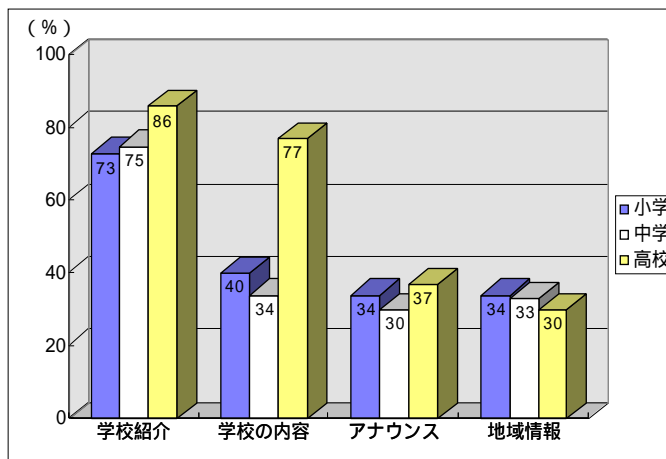


図8-1 カテゴリ分類の結果(学校レベルの発信内容)

### (4)授業レベルの発信内容(図8-2)

学校で行なっていることなどを紹介していたものは、「子どもの活動」としてまとめた。内容は、行事、プロジェクト、授業実践、とりくみ、海外交流、生活であった。授業実践の紹介は、同じことをしようとしている他の先生方の参考になるだろう。例えば、環境教育の実践例を東中学校(愛媛県)が載せていた。また、海外交流の例として、赤塚山高等学校(兵庫県)は日本の紹介、自分の意見など、海外交流を前提にしたページづくりをしていた。プロジェクトには概要を紹介するだけでなく、実際に得たデータを記録している例もあった。例えば、ネットワーク上の共同プロジェクトである酸性雨プロジェクトは、広島大学附属福山中学・高等学校などがお互いの観測データを載せていた。また、とりくみでは、前橋市立第四中学校がインターネット上で核実験などのアンケートをとった結果を報告していた。

学級のレベルで、先生が子どもたちとともに作るページを、「クラス」としてまとめた。学級ごと、教科ごとのページがあった。千葉大学教育学部附属中学校では、テーマを決めて意見を交換する学校間交流の拠点として使っている。このカテゴリは、小学校が非常に得意としている分野である。

生徒会の活動などを紹介していたものを、「生徒会」としてまとめた。内容は、生徒会活動、クラブ活動、委員会があり、実際の活動の様子などを紹介していた。クラブ活動の紹介は、他校のクラブとの交流のきっかけとなるかもしれない。また、クラブ紹介や一覧だけでなく、クラブが自分たちでページを作っているところも見かけた(例えば、新宿山吹高等学校)。グラフをみると、教育課程が上になるにしたがって、増えていく。

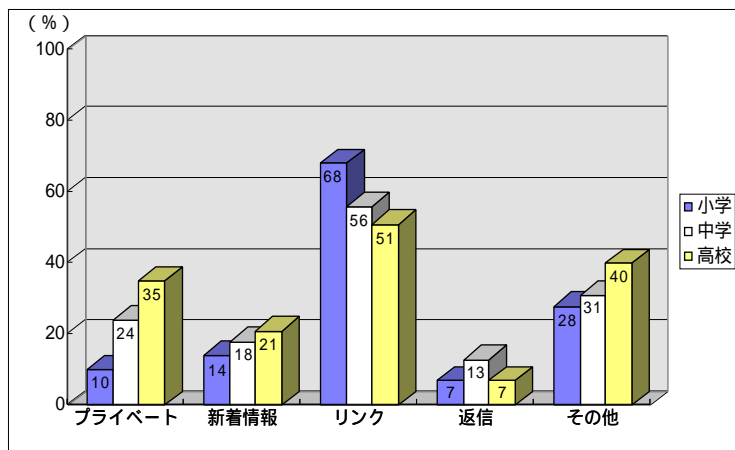


図8-2 カテゴリ分類の結果(授業レベルの発信内容)

子どもたちが作った作品を紹介しているものをまとめて、「作品」とした。

子どもたちの絵やCGなどの作品をのせて紹介している例や、教材や学習の資料として使えるようなデジタル画像資料集がある。平野小学校（滋賀県）の琵琶湖の図鑑シリーズが大変素晴しかった。このカテゴリは、高校より小・中学校が得意としている分野であった。

インターネットで子どもが情報を収集する際の手助けとなる項目を、「ガイド」とした。インターネット上に散らばったりソースをまとめたリンク集や、インターネットの使い方を教えるページなどがあつた。例えば、教科に関係するガイドとして、和歌山大学付属中の「情報収集の部屋」や、福島県葛尾中学校の「インターネット理科の部屋」などがある。インターネットの情報量が多すぎるだけに、情報への道しるべは大切である。子どもたちがWWWをまわるときのガイドとなる。

(5)その他の発信内容（図8-3）

個人的に自分のページをもって情報を発信していたものを、「プライベート」とした。教員、子ども、管理者の例が含まれる。個人的に自由にできるページであるから、自分の思ったことを自由に発信しているようであった。

ホームページの中で、新しく加わつた情報について紹介している部分があつた。これを「新着情報」とした。ホームページの最新情報のみを集めたページを用意する方法と、最新情報にマークで印をつける方法（図9参照）が見られた。再度来てくれた人が、ホームページの中の新しい情報をいちいち探す必要がないようにしてあげるためのものであり、非常に親切である。そのまま「新着情報ページ」の内容をどんどん蓄積していくと、ホームページの歩みの記録としても使える。本町小学校（神奈川県）はそのよい例である。

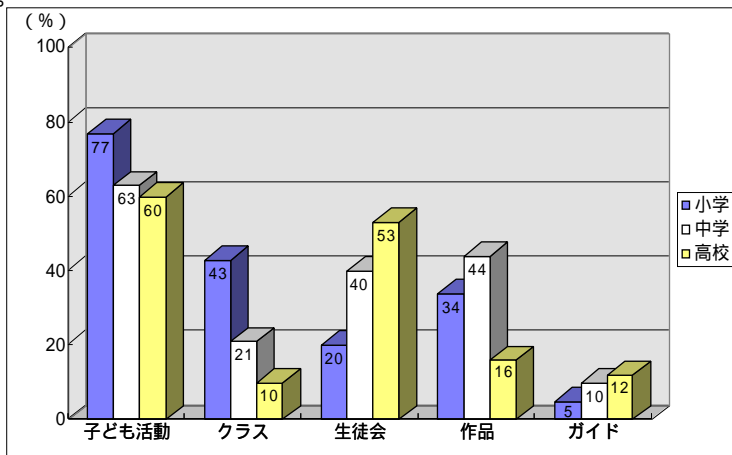


図8-3 カテゴリ分類の結果（その他の発信内容）

他サイトへリンクをはっているものを、「リンク」としてまとめた。おすすめのホームページ紹介、プロジェクト相互のリンク、地域の関連ホームページ、関連学校とのリンクなどの他に、自分が所属しているプロバイダのホームへのリンクも見られた。リンクを数多くはりめぐらせているホームページも多く、まさにWWW（世界規模のくもの巣状態）になっている。

意見感想などを入力する場所を備えてあるホームページは、「返信」に分類した。返信方法としてはアンケートと掲示板があつた。アンケートは、ホームページを見に来た人たちからコメントを得る手段である。電子メールのアドレスを書いておくのとは違い、気軽に入力できる選択肢などを用意することにより返信をもらいやすくしている。掲示板は、入力したと同時にページに記録され、誰もが読めるようになるシステムである。例えば、東北学院中学高等学校のページにある掲示板を図10に示しておく。

上記のカテゴリのどれにも入らないものを「その他」とした。「その他」に入つたものは、質の善し悪しにかかわらずユニークなものである。他にはない自分のところだけのものを設けるのは、見に来た人にとって関心を引くものである。自分の学校にしかできないようなことを考えてみるとよいだろう。しかし、その他にこだわらなくても、カテゴリには該当するが、自分たちにはできない内容もあるはずである。



図9 新着情報をマークで示している例（富山県大門高等学校のホームページより）

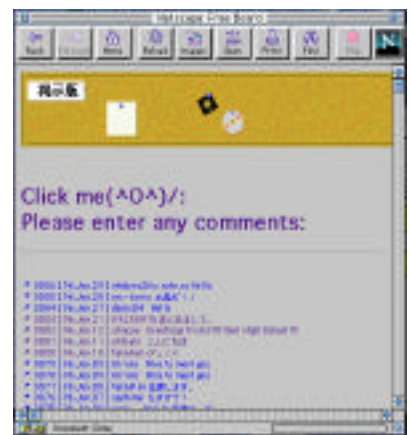


図10 掲示板による返信の受付（東北学院中学高等学校のホームページより）

## 2、ホームページの内容を設計する

では、結果を見たところで、いよいよ内容について考えていこう。

### (1)ホームページの一般型

カテゴリの件数の中で多いものをホームページの一般型とすれば、単純にカテゴリとその中の内容を示す項目のそれぞれ多い順ベスト5を組み合わせればよい。全体の一般型としては、「学校紹介」では概要と歴史、「学校の内容」、「活動」では行事とクラブ、「リンク」、「地域情報」となる。一般型に入るカテゴリに関しては、最低限必要な情報として用意しておいた方がいい。多くのホームページが使っているということは、紹介しやすい、役に立つなど何かしらの利点があると

考えられるからである。同様にして、校種別に一般型を考えてみると、小学校は図11のようになる。小学校の特徴としては、「学級」と、「とりくみ」に重点をおき、子どもの発想で自由に表現したものをみんなに見てもらうのがよい。

次に、中学校をみると、「学校紹介」の概要、「活動」の行事、「リンク」に加えて、子どもによる作品やクラブ活動での成果を発信する例が特徴的である。高校は、「学校紹介」の歴史、「学校の内容」の組織、「活動」の行事、「生徒会」のクラブにウエイトがおかれ、「組織」（学科構成など）の紹介がでてきている。小学校は、学校紹介よりも自分たちの「とりくみ」を紹介する傾向があるのに対し、高校では学校自体の紹介を基本として発信されている。中学校はその中間的な存在というイメージである。

「良い」ホームページをつくるには、使われ方+ユニーク+一般型という3つの観点から考えてみることである。一般型を参考にホームページの骨格を決める。何に使うためにホームページをつくるのかを考え、用途に応じた内容を盛り込む。そして、オリジナリティを出すために、何かユニークなものを加えよう。

誰のための発信なのかを考えると、おのずと自分のページをどのようにすべきかが見えてくる。例えば、交流をしようと思っているなら、その交流相手のことを考えてみる。もし相手が小学生なら、漢字は使わないようにするなど、受信者のことを考えることが大切である。

(2)ホームページ作成の留意点

内容を考える上で注意して欲しいことが2つある。

まずは、著作権の問題である。他の本からスキャナーでとってくるなど、とにかくコピーするのは控えた方がいい。なるべく自分で作る。自分で作ったものなら誰も文句は言わない。それが難しいのなら、相手先に確認してみることである。例えば、地元の情報などは、著作権の了解をとって載せていると明記してあるところが結構あった。フリーのイラスト集なども多く出ているので、それらを利用するのも有効な手である。

また、個人の情報をどこまで載せるかというプライバシーに関する問題もある。子どもたちの紹介のページを作るのはいいが、そこに写真や名前を載せるときは一考してほしい。悪用されないとも限らないからである。E-mailアドレスならどんなにのせても構わない

だろうが、個人の電話番号や住所はやめておいた方がいい。例えば、グループ名、イニシャル、下の名前だけなどに行っているところがあった。

ホームページは世界に開かれた窓である。著作権やプライバシーの問題に十分注意しながらホームページを作る必要がある。



図11 小学校ホームページの一般型

```

<HTML>                                     ...HTMLの文書であることを示す
<HEAD>
<TITLE>IMETS elementary school</TITLE>     ...ウインドウに出るタイトルをつける
</HEAD>
<BODY>                                     ...本文始まりを示す。-----網かけ部分は最低限必要なもの-----
<IMG SRC="imet.gif">                       ...imet.gifというファイル名のイメージを取り込む
<P>                                         ...1行空ける
<H2>わたしたちのIMETS小学校を紹介します</H2> ...大きさが2のみだしとする
<HR>                                        ...区切り線を引く
<UL>                                        ...リストをつくる、以下<LI>がリストの項目となる
<LI><A HREF="/intro.html">学校紹介 (概要) </A> ...リンクをはる
<LI><A HREF="/contents.html">学校の内容</A>
<LI>学校の活動紹介
    <A HREF="/torikumi.html">学校でのとりくみ</A>、
    <A HREF="/event.html">行事</A>
<LI><A HREF="/class.html">クラス「学級の部屋」へ</A><IMG SRC="new.gif">
</UL>                                       ...リスト終了
<!-- ここはコメント文 --> ...<!-- -->で囲まれた部分はコメントとして無視される
<HR><A HREF="http://imets.ac.jp/">IMETS大学へ</A><HR>
<CENTER>                                    ...センタリング開始
<I>Last modified 25.January 96</I><BR>    ...改行する
<B>master@elementary.imets.ac.jp</B>
</CENTER>                                    ...センタリング終了
</BODY>                                     ...本文終わりを示す
</HTML>                                    ...HTMLの終わり
</BODY>                                     ...本文終わりを示す
</HTML>                                    ...HTMLの終わり

```

図12 小学校ホームページ (図11) のHTMLファイル

### 3. HTML化する

内容を考えたら、あとはホームページとして作っていただくだけである。しかし、ホームページはただ文字を書いて、絵を貼っていただくだけでは作れない。HTMLという文法に従って書かなければならないのである。

(1)HTMLって何？

HTMLとはHyper Text Markup Languageの略語である。Hyper Text (ハイパーテキスト) というのは、関連する話題などを扱った他のページへジャンプするボタンを用意することができる構造のこと。このようにしてページとページをつなぐことをリンクするという。つなぐのは別に海外の他のページでも良く、こうやってWWWが広がっている。図11のページを再び見てもらおう。このページはいくつかの部品でできている。ウインドウの名前として表示されるページタイトル、本文の最初の学校名のグラフィック、ようこそその文字、リンク先のリスト、新着情報を示す「New」のグラフィック、更新日と管理者名などである。

このホームページを表示させるには、HTMLを使って図12のように部品1つ1つについて記述しなければならない。なんだかややっこしいようなイメージを受けるがそんなことはない。HTMLの文法規則はいたって簡単である。HTMLのファイルはただのテキストファイルなので、使い慣れたワープロやエディタで書くことができる。

HTML形式で書かれたテキストファイルは、インターネットを介して通信され、それを読み取り画面に表示させるブラウザソフトによって解釈・表示される。ホームページを立ち上げておけば、世界のどこからでも求めに応じて情報発信が来て、それをどの機種種のコンピュータでも表示させることができるのは、HTMLという統一形式とそれを読み取れるブラウザソフトが存在するからなのである。

(2) HTMLの機能

図12を見るとわかるとおり、HTMLにはタグといって、「<」から「>」で囲まれた部分がある。この部分がHTMLの命令の部分である。

タグは基本的に2つのタイプがあり、<...>~</...>という形で~部分に命令の効力をもつものと、<...>のみでそこだけで命令を実行するものがある。タグは入れ子が可能であり、また必ず半角で書かないと認識されないので注意する。

今のところ、HTMLには表現能力にかなり制限がある。どのような機能があるのかを図13に示しておく。標準的

なワープロの文字装飾やレイアウト機能に加えて、簡単な表作成と画像の貼り込みができる程度と考えておけばいい。

HTMLの最大の特徴は、他のページへのリンク指定である。ここをクリックされたらこのページに移動するかを<A HREF=" " >で指定する。クリックする箇所は文章の一部でも画像でもよい。これだけで、自分のページを世界のどのページともリンクすることができるのである。HTMLにもいくつかのバージョンがあり、さらにブラウザソフトごとに独自の拡張命令があるため、必ずしも通信先で見る画面が自分が作った時と同じとは限らない。相手が、画面の横幅をどの長さに行っているかでも、レイアウトが変わってしまう。

(3)HTMLをマスターするには

HTMLを知りたいとき、参考書はたくさん出ている。しかし、HTMLの基本を知ってしまえば、参考書はそこら中にある。それは、他の人のホームページである。ホームページをそっくりマネするのはだめだが、HTMLの使い方ぐらい見るなら大丈夫。ほとんど参考にしよう。

実際にホームページのHTMLが見たいときには、Netscapeでは「View」メ

ニューの「Source」を選ぶと見ることができる。HTMLの中身と実際に表示されたページを見くらべて、実現したい部分のHTMLをコピー&ペーストするとよい。

次の手段はインターネット上に公開されているオンラインマニュアルを参照することである。「ネットのことはネットに聞け」と言う。インターネットのことで不明な点について、インターネット上で解決できるようになれば立派な「初級者」の仲間入りだとも言われている。HTMLについてのオンラインマニュアルのおすすめは、慶応湘南キャンパスのWWWmanuals (<http://www.sfc.keio.ac.jp/Manual/HTML/>)にある。また、HTMLの命令タグを覚えていなくてもボタン操作で記述できるようにする支援エディタもネット上に続々登場している。清水誠氏のページ (<http://awa.a-web.co.jp/mak/>) が詳しい情報源になる。やっぱり本で勉強したいという人には、吉村他(1995)をすすめておこう。また、CD-ROMでの勉強をお望みの方には、『楽チン、ホームページの作り方』(マコス)がいい。ホームページの基礎から知って得る裏ワザまで、音声解説と具体例での説明がとてありがたい。

#### 文字の装飾

##### 文字サイズの変更

見出し<Hn> </Hn>、nは1 6の数値。数字が小さいほど文字が大きくなる。<FONT SIZE="n"> </FONT> (N)、nはフォント数はいはいる。

##### 文字スタイルの変更

太字<B> </B>、斜体<I> </I>、等幅<TT> </TT>、点滅<BLINK> </BLINK> (N)、

#### レイアウト

改行<BR>、1行空ける<P>、ソースの改行がそのまま影響<PRE> </PRE>

字下げ<BLOCKQUOTE> </BLOCKQUOTE>、

センタリング<CENTER> </CENTER> (N)

リストをつくる<LI>

番号なし<UL> </UL>

あり<OL> </OL>

定義型<DL> </DL>の3種類

表を作る<TABLE> </TABLE>

<TH> </TH>表のみだし、<TD> </TD>セル、<TR> </TR>列

区切り線を引く<HR>

画像をはる<IMG SRC="画像ファイル">

#### 他のページとつなぐ

リンクをはる<A HREF="URL or FILE名">リンク元のボタン名</A>  
(音声、動画の表示にもリンクを使う)

注、(N)マークがついたものは、Netscapeブラウザ独自の拡張で、他のブラウザではうまく表示されないこともある。

図13 HTMLの基本機能一覧

(4)HTML抜きでホームページを作る日  
いままで解説してきたHTML、そんな  
に難しくないといっても、やはり覚  
えるのは辛いことである。これが大人  
ならまだしも、子どもたちに教える  
となるとさらに大変である。

筆者が特に注目しているのは、WYSI  
WYGなワープロ環境で普通にホーム  
ページをデザインして、それをHTMLに  
翻訳してくれるHTML翻訳エディタと  
呼ばれるもの。ホームページをつくる  
ほとんどの過程(画像を貼る  
、リンクをする)でHTMLを意識させ  
ないエディタも登場してきている。こ  
れなら、教員の方々だけでなく、子  
どもたちが簡単にホームページを作  
れるだろう。筆者も最近話題のAdobe PageM  
illというエディタを使ってみた。現在  
は英語のみに対応であったが、それ  
でもワープロとほぼ同じ感覚でホーム  
ページを作っていくことができた。HTM  
Lを知らなくてもホームページを作  
れるようになる日が近い(?)かもしれ  
ない。

#### 4、おわりに

ホームページの設計について、内容  
にウエイトをおいて話を進めてきた  
が、それには理由がある。HTMLを  
知らなくてもエディタでホームページ  
が作れる日が近づいている。一方  
HTMLには、かなり表現の限界がある  
ということもわかっていただけたと思  
う(最近、一部のブラウザソフトで  
かなりいろいろなことができるよ  
うになってきた)。

そこで、ホームページの内容を充  
実させることが、一番重要になっ  
てくる。ホームページを使って何  
ができるのか、何がしたいかを考  
えてみるのが、必要な時期では  
ないだろうか。最後に、それでは  
じっくりとホームページ設計の基  
礎から学んでみたいと思われた  
読者のために、ホーン(1991)、  
シュナイダーマン(1993)を  
読んでみることをおすすめしたい。

#### 謝辞

本稿のために、快くホームページ  
を使わせて下さった東北学院学院  
中学高等学校の井口巖先生にお  
礼申し上げます。

#### < 参考文献 >

- ホーン,R.E.(1991)『ハイパーテキスト  
情報整理学—構造的コンテンツ作成  
のすすめ—』日経BP社  
市川尚・井口巖・鈴木克明(1995)「WW  
Wホームページはどのように設計  
したらよいか—小中高ホームペ  
ージの調査・分析の観点から—」  
『第21回教育工学研究協議会全  
大会発表論文集』,pp.65-68  
川添歩・編集部(1995)「ホームペ  
ージオーナーになるためのHTML入門」  
『インターネットマガジン』1995  
年8月号,pp.75-95  
『楽チン、ホームページの作り方』CD-  
ROM(Mac+Windows版)(株)マ  
コス  
シュナイダーマン,B.(1993)『ユー  
ザインタフェースの設計(第2版)—  
やさしい対話型システムへの指  
針—』日経BP社  
吉村信・家永百舎子・鑑聡(編著)(19  
95)『インターネットホームページ  
デザイン—インターネットエン  
ジェルたちのためのWWW&HTML—  
』翔泳社

#### < 用語解説 >

ハイパーテキスト：ある場所から、そ  
の関連する項目をつなげ、行き来  
できるようにすること。従来のテキ  
ストは流れが一方向であったの  
に対し、関連項目へ飛んだり  
と相互参照型の構造である。

リンク：ページとページを論理的  
につなげる。あるページから  
他のページへジャンプするボタ  
ンを用意すること。

WWW：World Wide Webの略語。  
世界中の情報をハイパーテキ  
ストベースで検索していく  
インターネット上のサービス。

ブラウザ：WWW上で公開されて  
いる情報(ホームページ)を見  
てまわるためのソフトウェア。  
WWWだけでなく、他の  
インターネットサービスも  
見られるよう、サポートして  
いる。NetscapeとMosaic  
が有名である。

ホームページ：ある場所から、WWW  
上で見るために発信されている  
情報。以前は、公開されてい  
るページの一番先頭の部分を  
指したが、今は、ページ全  
体をまとめてそう呼ぶよ  
うになってきた。

ページ：WWWでは、情報公開の  
最小単位。1ページは、  
ブラウザでスクロール  
できる範囲。ホームペ  
ージを構成する要素  
である。だいたいhtml  
ファイル1つ分である。

HTML：Hyper Text Markup  
Languageの略語。ホーム  
ページを書くための言  
語である。

サーバ：情報を発信している  
コンピュータのこと。ちな  
みに情報を受け取る  
コンピュータをクライ  
アントと呼ぶ。

サイト：サーバとかなり近い  
意味で使われるが、情  
報の発信場所という  
意味合いが強い。自  
分の作ったホームペ  
ージの適応範囲。

URL：Uniform Resource  
Locatorの略語。ホーム  
ページのあるところ  
を示す住所のような  
もの。ホームページの  
URLはhttp://で始  
まる。簡単にアドレ  
スとも言う時がある。

100校プロジェクト：文部省  
と通産省による通信  
環境提供プロジェクト  
の略称。平成7、8  
年度、サーバを貸  
与し、通信回線料  
を提供して、イン  
ターネットの教育  
利用を試みている。